

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」申込書

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」において、下記のとおり自らの調査研究を発表したいため、募集要項に基づき応募します。

研究テーマ	三鷹市周辺住民を対象とした新たな楽しみとしての「健康歩きマップ」の提案
-------	-------------------------------------

◆応募者（応募代表者）

(フリガナ) タカシナ シュウタロウ	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
氏名 高階 柊太郎	杏林大学 外国語学部 古本泰之ゼミ

◆共同提案者

氏名(フリガナ)	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
松浦 拓巳 (マツラ タミ)	杏林大学 外国語学部 古本泰之ゼミ
高松 響 (タカマツ ヒビキ)	杏林大学 外国語学部 古本泰之ゼミ
石岡 優希 (イサカ ユキ)	杏林大学 外国語学部 古本泰之ゼミ
秋間 美央莉 (アキマ ミオリ)	杏林大学 外国語学部 古本泰之ゼミ

◆研究の動機、テーマに関する考え、研究計画・手法などを、600字以内で記載

〔研究の動機〕

コロナ禍の現在、新たな楽しみの一つとして自地域内で観光を楽しむこと（マイクロ・ツーリズム）、特に街歩きに注目が集まっている。

ところで、本学には保健学部理学療法学科・健康福祉学科が設置されており、運動に関する研究が行われている。その専門的見知からルートを歩くことがもたらす運動情報を付加すれば独自性の高い街歩きマップの作成につながるのではないかと考えた。そこで、本年5月頃から理学療法学科と観光交流文化学科との連携に基づき、観光協会などが作成した既存ルートの改善提案と実践を行い、運動データの計測を積みかさねてきた。

その経験から、地元の人に三鷹市の魅力を再発見していただけるような新たな観光形態を作することを目的として、本提案研究に応募する。

〔テーマに関する考え〕

三鷹市内の観光資源を徒歩で巡って楽しみつつ、健康促進をも図ろうというテーマであり、コロナ禍で旅行に行けない期間に三鷹市の魅力や価値の再発見をしようというのが狙いとなっている。

〔研究計画・手法〕既に一部着手

- (1) 既存の街歩きマップに新たな観光資源や楽しみ方を入れ込んだ街歩きコース作成を行う。
- (2) 作成したマップを実際に歩き、心拍計「POLAR」を用いて距離や心拍数などを測定する。
- (3) 理学療法学科・健康福祉学科との連携に基づき、(2)のデータから街歩きによる運動量を数値化し、健康増進に効果的なマップを作成する。